



## 大学生活とdot

◇ **今回は、長谷部有洋さん（早大先進理工学研究科生命医科学専攻）のレポートです！**

こんにちは。2012年に関高校を卒業した長谷部有洋です。この春から繊維系の化学メーカーで研究者として働き始めました。さっそくですが皆さん、こちらの文章を見たり聞いたりしたことありますか？

“You can't connect the dots looking forward; you can only connect them looking backwards. So you have to trust that the dots will somehow connect in your future.” (Steve Jobs, 2005)

2005年、後に伝説と呼ばれることになる Steve Jobs のスピーチの中の一節です。Youtube でもスピーチを見ることができるので“Steve Jobs speech”でぜひ検索して見てみてください。

今回私は、大学院での研究生活をメインにお話したいと思います。文系で大学院まで進む方は少ないかと思いますが、理系の方は大学入学後の進路選択の1つでもあるので読んでもらえると幸いです。

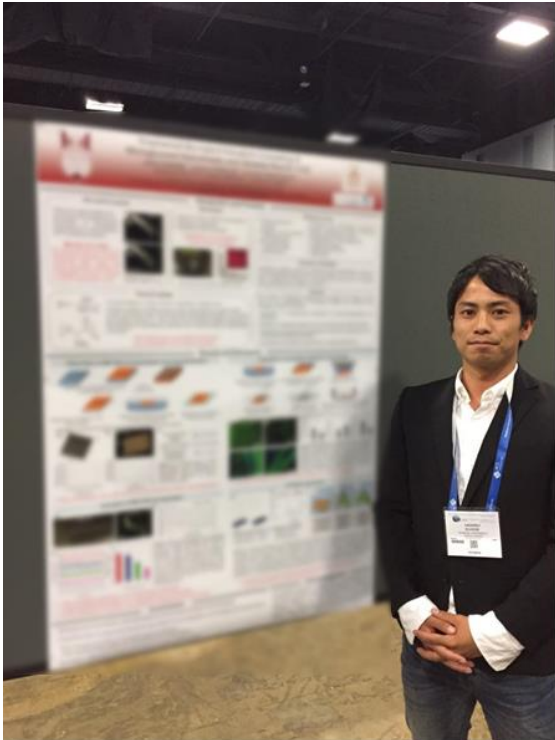
私は早稲田大学を卒業後、同大学の大学院に進学しました。大学院に進学した理由は単純で、夢の実現に役立つと考えたからです。大学生時代、私は製薬会社で薬の開発を手掛けたいと考えていました。薬を開発する研究者になるには、大学時代に就職活動を行うよりも、専門的な知識を身につけた上で大学院時代に就職活動を行う方が圧倒的に有利だからです。仮に製薬会社の開発職でなくても、研究者を目指す場合、大学院に進学することで就職できる会社の幅が圧倒的に広がります。この理由から私は大学院へ進学しました。



研究室のある早稲田大学先端生命医科学センター（TWIns）。毎年、関高生も訪れます。2016年には、関高生対象にナノテクに関する講義を行いました。

大学院では週に2コマほど授業もありましたが、メインは研究活動です。基本的に毎日10:00-19:00まで研究室にて研究を進めます。私は、ナノシートという極薄のシートを用いた研究を行っていました。ナノシートは極薄に由来した柔軟性や密着性と言った特徴を持ちます。このナノシートを筋肉細胞と組み合わせた人工筋肉の作製に取り組んでいました。

正直言って研究はそこまで楽なことではありませんでした。楽しいことも多々ありました。そ



の代表が海外への出張です。私はイタリアの大学院と共同研究を行っていたため、2年間に3度現地へ行き、計2か月ほど研究や議論を行いました。

私が行ったイタリアの大学院に日本人はいなかったため、基本的に会話は英語になります。ここでは大学時代に行った、1か月間のフィリピン英語留学で学んだ英会話が活かされました。イタリアでは共同研究者が美味しいイタリアンを食べさせてくれたり、休日は観光に繰り出したりと海外での生活を満喫しました。

また、共同研究の成果を発表するためアメリカで開かれた学会にも参加しました。学会ではその分野の第一線で活躍する研究者の考え方を学んだり、他者視点からのアドバイスをもらえたりします。これは普段の生活では得難いことなので、研究活動の盛んな関高生もぜひ学会に参加してみてください。

学会発表にて。

国際共同研究やプレゼンには英語力が必須。

また、大学院での研究と並行してインターンシップに参加するなど、将来の仕事について考える時間を積極的に作りました。文系・理系関係なく、会社の業務に関して知り得るインターンシップへの参加はとてつもなく重要な意味を持ちます。私自身、前述のように製薬会社のインターンをメインに、化学メーカーや食品メーカーのインターンに参加するなどできるだけ広い視点を持ちながらインターンに参加しました。その中で、薬の力で多くの人に貢献する製薬会社は魅力的だが、一つの薬を市場に出すまで10年ほどかかるのは飽き性の自分には合わないという考えが生まれました。同時に、化学の力で人々の生活を豊かにする化学メーカーに惹かれ、化学メーカーへの就職を決めました。就職活動では、国際共同研究や英語力が評価され、内定に繋がりました。また、インターンを始めた当初、化学メーカーへの就職は全くと言っていいほど考えていませんでしたが、



イタリアの共同研究者らと

多くの会社のインターンに参加したからこそ自分の気持ちを整理し、納得のいく就職活動を行うことができました。

これらの経験から皆さんにお伝えしたいのは、選択肢を広げる努力を惜しまないで欲しいことです。選択肢を増やすことは、最初の引用文で言われている dots を増やすことになります。Dots を増やすことで将来的に dot と dot が繋がる可能性が広がり、それらが繋がることでまた選択肢が増えると思います。

現在皆さんは、勉強・部活・研究などに取り組んでいると思いますが、それらの取り組みは将来きっと皆さん自身に役立つはずです。

皆さんが素晴らしい高校・大学・大学院生活を送れることを願っています。



研究室にて